

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191000413		
法人名	クリーンハウス株式会社		
事業所名	グループホームたんぽぽ江別東光館		
所在地	北海道江別市東光町33-6		
自己評価作成日	令和6年10月10日	評価結果市町村受理日	令和6年11月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&JigrosyoCd=0191000413-00&ServiceCd=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ソーシャルリサーチ
所在地	北海道札幌市厚別区厚別北2条4丁目1-2
訪問調査日	令和6年10月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍で面会や外出の機会が制限されていたが昨年5月以降は面会緩和や外出の機会を取り戻し毎月1回は行事事も含め外に出る機会を作っています。
また、「出来る事を奪わない支援」を常に心掛けて利用者様の自立した生活をサポートしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

グループホームたんぽぽ江別東光館は、コンビニやバス停に近く、JR江別駅へも車で数分の距離と利便性の良い事業所です。開設から7年目に入り、町内会行事への参加や運営推進会議、避難訓練への住民の協力、他施設との交流、バンの移動販売車の訪問時は近隣へ知らせるなど、地域に根差した運営をしています。理念となるミッションと5項目のビジョンの実現に向けて、法人は各委員会や研修会の体制を整え、職員の認知症ケアの専門性と資質の確保、向上に努めています。日常のケアにもう一つ加える「プラスワンケア計画」に向けて職員は利用者のニーズや課題の把握に努め検討してより豊かな生活支援につなげています。誕生日には寿司屋に出かけたり、大型店で買い物を楽しむなど、可能な限り利用者の希望を叶えています。コロナ禍の緩和以降は外出レクを企画し、時には家族の参加を得て水族館やロイズガーデン、岩見沢公園、円山動物園などに出かけています。歩行困難な利用者も車椅子を利用して気分転換や五感刺激の機会として支援しています。様々な支援場面で利用者の尊厳や人格を保障しており、本人の持つ力に着目し、出来ない部分を最小限に支えていくことで残存能力の維持向上を図っています。終の棲家として終末期対応では看取り部屋を用意し、家族と共に心を寄せて支援を重ねています。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印		項 目		取組の成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向をつかんでいる (参考項目:23、24、25)	○	1 ほぼ全ての利用者の 2 利用者の2/3くらい 3 利用者の1/3くらい 4 ほとんどつかんでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9、10、19)		1 ほぼ全ての家族と 2 家族の2/3くらいと 3 家族の1/3くらいと 4 ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18、38)	○	1 毎日ある 2 数日に1回程度ある 3 たまにある 4 ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2、20)	○	1 ほぼ毎日のように 2 数日に1回程度 3 たまに 4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1 大いに増えている 2 少しずつ増えている 3 あまり増えていない 4 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36、37)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11、12)	○	1 ほぼ全ての職員が 2 職員の2/3くらいが 3 職員の1/3くらいが 4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30、31)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1 ほぼ全ての家族等が 2 家族等の2/3くらいが 3 家族等の1/3くらいが 4 ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1 ほぼ全ての利用者が 2 利用者の2/3くらいが 3 利用者の1/3くらいが 4 ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ミッションビジョンに基づいた取り組みを定期的に行っている。	介護支援の主軸となるミッションと5項目のビジョンを介護事業部共通の理念として謳い、事業所内に掲示しています。半年毎にビジョンの1項目を掘り下げて話し合い、サービスの具体案を検討し、実践に活かしながら状況を確認し評価に努めています。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会で行っている廃品回収や花壇の花植替えに参加。避難訓練の参加。またパンの移動販売の際には近隣にお知らせし利用して頂いています。	町内会の資源回収活動や花壇の花植えなどの行事に参加したり、近隣の高齢者施設から生演奏に招かれています。運営推進会議や避難訓練には地域住民も参加し、パンの移動販売車の訪問時には回覧板等で案内するなど、開設時より地域とは良好な関係を保っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議での情報共有や地域の方の相談に対応しグループホームを知って頂くよう努力していきたい。			
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回地域役員、家族、行政参加の元、現状報告と意見交換しサービス向上に活かしている。	運営推進会議は地域包括支援センター職員、民生委員、町内会役員、家族等が参加し定期開催しています。行事写真を資料に運営状況を詳細に報告し助言や要望等を運営に反映させるなど、会議を通じて地域からの理解と支援が得られるよう努めています。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的な入居状況の報告や指導など日頃から密な連携を心掛けています。	利用者の生活と尊厳の安定を図れるように、市の担当者とは随時連絡や相談等を行い指導や助言を得ています。空き情報はメールで報告し、各種届出は窓口に直接伺い情報の交換を行うなど、適正な運営の維持に向け協働関係を築いています。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員を設置し学ぶ機会を設けている。 夜間の防犯目的の施錠以外は行っていない。	身体拘束適正化・虐待防止委員会及び研修会を介護事業部合同で定期開催しており、その内容は各事業所の委員会で伝達し周知を図っています。利用者の状況をアセスメントし、止むを得ない場合は職員間での協議は基より、行政に相談し家族の同意を得て、根本的な支援の有り方を確認しています。職員は定期的にメンタルチェックを行い、接遇研修で学び、適切な支援への正しい理解につなげています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的な研修を行い防止に努めている。			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市で行っている研修に参加したり職員にも促している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際に詳しく説明し同意して頂いている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、事業所の報告、利用者様の様子を報告している。	家族へは毎月発行の事業所便りや生活報告書、運営推進会議録を送付し、電話連絡も行っています。面会に関するアンケートを実施し、居室での面談が可能になり、家族の訪問が多くなっています。さらに、家族参加の行事を企画するなど要望に応えています。利用者の誕生日には希望を確認し、可能な限り実現しています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月職員会議で話し合っている。	日々の申し送りや毎月の職員会議で利用者や業務に関する提案や要望等を話し合い情報を共有しています。人事考課に伴う定期面談や状況に応じた都度の面談で職員の思いを聞き取り、就労環境の整備を行っています。職員は業務全般に精通出来るように、各係りを輪番で担っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場認証を取得し評価制度を取り入れ向上心を持って働ける職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修や資格支援制度を取り入れ1人1人のスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	他事業所との合同研修の機会を通じて交流している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面談の際に利用者様の意向を確認し支援内容に反映するよう配慮している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面談の際に利用者様の意向を確認し支援内容に反映するよう配慮している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前の情報と面談時に困りごとを聞いて出来る範囲で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者が自立した生活を送れるよう一緒に考え汲み取っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係性を知り常に一緒に支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	主治医や理美容室など本人の意向に沿って関係を継続している。	居室での面会が可能になり、家族の訪問が多くなっています。家族と自宅訪問や墓参り、葬儀への参列、職員同行で行きつけの美容室で整髪、電話や手紙の取次ぎなど、本人が培ってきた関係を大切にしています。職員は回想法を取り入れ、アルバムを開き昔の思い出を傾聴し、動画配信サイトで懐かしの歌を流しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者様同士でテーブルを囲んだり、職員が間に入って交流出来るよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	定期的に利用者様の髪を切ってもらっている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の思いを共有し実現出来るよう努めているが困難な場合は職員で話し合っている。	職員は利用者との関わりや観察の中で望んでいることを捉え、暮らしの現状の把握に努めています。気づきは職員間で共有し、利用者の意向を尊重する個別ケアを目指しています。意思疎通が困難な場合も表情や仕草から感じ取り把握に努めています。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係機関から情報収集している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々努力している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にサービス担当者会議を開催しより良いケアに繋げている。	本人や家族、医療関係者の意見を踏まえて、担当職員が中心となりモニタリングやアセスメントを繰り返し、サービス担当者会議で利用者がより良く暮らすための課題や支援のあり方を検討しています。定期見直しは3か月～6か月とし、急変時は随時見直し、認知症状の進行が予防できる自立支援の視点に立った介護計画を策定しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録から課題を抽出しプランの見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとらわれない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り柔軟な支援に取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用には至っていないのが現状です。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や受診など本人や家族の意向に沿った医療の提供が出来ている。	入居時に本人、家族とかかりつけ医を決めています。現時点では殆どの利用者が協力医療機関の往診を月2回受けています。市外の受診は家族対応ですが、市内のかかりつけ医や専門医への受診は事業所で支援しています。協力歯科医の週1回の口腔ケアと月1回の検診、非常勤看護師の週2回の訪問で、利用者の日々の健康維持に努めています。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤看護師や往診の際に相談している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に情報提供し入院後もSWと密に連携を図っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	主治医とも連携し終末期の意向を確認している。	重度化・看取りに係わる指針を整備し、入居時に利用者、家族に説明し同意を得ています。主治医の判断に基づき関係者間で協議し、今後の方針を取り決めていますが、性急な対応にならないように、年1度終末期に関する意向を本人、家族に聞き取り確認書を作成するなど、段階を追って合意形成を図っています。職員は研修を受け、看取りを経験しています。	利用者の尊厳と権利を守りながら、人生の最終期を迎えるための思いや意向を本人の言葉で「どう生きたいか、どうして欲しいか」聞き取る機会を工夫し、得た情報を記録に残し、家族に伝えるなど、看取りに関するアセスメントの取り組みが望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	実践的な訓練は出来ていないが研修や急変時の対応方法は共有している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の火災避難訓練、年1回の水害避難訓練を実施し、地域の方にも訓練に参加して頂いている。	日中・夜間想定火災避難訓練を年2回、消防署の指導の下に、利用者参加で地域住民も参加し実施しています。水害時の避難場所となる系列のホテルまで車移動の避難訓練を実施しています。非常用食料の確保と自家発電機を設置しています。今年度中に地震避難訓練の実施を計画しています。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇研修を行うなど1人1人の尊厳に配慮した対応を心掛けている。	職員は尊厳や権利に係る研修を重ねており、声掛けや言葉遣い、慣れと親しみの違いなど、人格侵害にならない対応を心がけています。排泄時や入浴時にはバスタオルの使用で羞恥心に配慮し、同性介助にも応えています。個人情報も適切に管理しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を会話の中から見つけたり選択出来るような環境作りを心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	声掛けし本人の意向を確認し支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えを一緒に用意したり確認してもらっている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	材料の下ごしらえや盛り付けなど一緒に行っている。	畑の収穫物を取り入れ旬を感じられる献立で、職員が調理し、利用者も食材の下拵えを始めとした一連の作業に携わっています。誕生日には本人の要望に応じて寿司屋に出かけたり、行事食も恵方巻や流しソーメン、オードブル、出前寿司、ピザなど工夫を凝らし好評を得ています。移動販売のパン購入の選択も楽しみの一つとなっています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	記録にて1人1人の状態を把握している。水分はこまめに提供し声掛けの工夫も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施し、週1回歯科往診を取り入れている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	記録にて1人1人の排泄パターンを把握し適した排泄ケアに取り組んでいる。	排泄状況を詳細に記録し、座位が保てる限り2人介助でトイレでの排泄を支援しています。状態に応じて、夜間のポータブルトイレ使用やベッド上での支援、衛生用品の選択は快適さと共に経済的負担も考慮して、排泄のリズムを分析し、失敗を減らすように努めるなど様々な角度から検討しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分と運動のバランスや主治医と連携し排便ケアに取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	希望やタイミングを確認し個々に沿った支援に努めている。	入浴は湯船に浸かることを基本に週2回を目安にしており、2人介助や同性介助にも対応しています。状態により足湯を合わせたシャワー浴も取り入れています。湯加減の調整や入浴剤の使用、好みの飲料水で水分補給など、入浴時は利用者の心にも触れ、職員は会話から思いの把握に努めています。入浴を拒む場合は声掛けを工夫しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の意向や状態に応じて休息出来るよう努めている。居室内の温度や環境を整え安眠出来るよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医や薬剤師と連携し薬剤情報を職員で共有するようになっている。服薬確認は都度行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事、得意な事を役割として出来るよう支援している。楽しみ事を皆で行い気分転換を行っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望のある利用者様は希望に沿えるように家族と連携しています。	好天時は花壇や畑の手入れや玄関先のベンチで日光浴を楽しんでいます。コロナ禍の緩和以降は外出レクを積極的に取り入れ、時には家族同伴で動物園や水族館、大型公園など、歩行困難な利用者も車椅子を利用し出かけています。誕生日の希望で寿司屋や買い物ツアー、家族と自宅訪問や葬儀参列、職員と美容院など個別の対応にも努め、その人らしい暮らしを支えています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる利用者様は自身で使っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	スマホを所持している利用者様は自身で電話している。希望時は取り次ぎしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに利用者様と一緒に作成した貼り絵や飾りをしています。	事業所内は明るく落ち着いた生活空間で、壁には季節の飾りや利用者の作品、事業所便り、スナップ写真などを掲示しています。温湿度や換気、日差しの調整にも配慮し、安全や安心を心がけ、居心地の良い環境を作り上げています。日中はほとんどの利用者が居間で過ごしていて、食後のレク活動や利用者同士の談笑など、寛ぎの居場所となっています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いてくつろいでもらったり気の合う利用者様同士、居間で談話したり過ごせている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物や気に入っている物を持ち込んで頂いている。	6畳の居室にはクローゼットとカーテンを設置しています。馴染みのある家具や調度品、大切な仏壇、愛着のあるミシンなど持ち込み、ぬり絵や家族写真などお気に入りの品々を飾り、その人らしく安心できる生活環境を整えています。状態変化時には安全に配慮して家具の配置を検討しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の表札やトイレとわかるような表示に工夫をしている。		